

あとがき

平成 11 年 7 月 5 日に科学技術庁地域結集型共同研究地域に選定され、その後同年 10 月 1 日から「知的センシング技術に基づく実環境情報処理技術開発」をテーマに、画像処理技術を基礎技術とする人間の意図を理解するインターフェイスの研究を開始し、平成 16 年 9 月 30 日を以て岐阜県地域結集型共同研究事業が終了しました。

科学技術振興機構の地域結集型共同研究事業採択テーマ（平成 16 年 9 月末現在）の中で、唯一「情報分野」を選択し事業を進めて参りましたが、概ね当初の計画に従って、数々の研究成果を上げることができました。

人間センシングの成果として、顔画像データベースを構築しました。このデータベースは、人間の性別・年代推定の要素研究のための基礎データとして構築したものであり、研究での利用価値の高さを認識し学会等で発表したところ予想以上の反響を得、発表直後から配布の希望が届きました。日本をはじめとする同分野の研究開発に資するため、平成 13 年 7 月から配布を開始したところ各方面から申込みが相次ぎ 4 年目を迎えても同様の状況が続いています。また、自動マーケティング情報システムは、前述の顔画像データベースを活用して、性別・年代判別技術、個人識別技術、視線検出技術、人物追跡技術、顔部品抽出技術の研究開発結果を組み合わせることにより完成しました。顧客購買情報や視線による潜在的購買意識情報の自動収集に成功し、今後は共同研究に参加した企業を中心に実用化に向けた開発を進めます。

環境センシングの成果として、全方向ステレオシステムを開発しました。このシステムは、完全に死角が無く高解像度でリアルタイムな全方向のカラー情報及び 3 次元距離情報を取得するシステムとして、世界的に画期的なものであります。現在では、用途に応じたサイズのシステムがいくつも開発されています。今後も引き続き、セキュリティ、サーベイランス、福祉、公共（災害時システム）、アミューズメント及びエンターティメント等の多方面への応用を目指して、岐阜県の地域結集型研究支援事業に研究開発を継承します。ソフトピアジャパンに設置したコア研究室での研究開発を継続し、近い将来、皆様のもとに人に役立つ、人に優しい、人と調和した製品としてお届けしたいと思えます。

そして、フェーズⅢでは、これらの研究成果を組み合わせ人間と環境のインタラクションとして、介護施設等における支援システム、災害地等における情報収集（ロボット）システムをはじめ広範な分野での利活用を目指し、大学、企業、公設試等の連携により研究開発を継続して参ります。

最後に、本事業が大きな研究成果を収め順調に 5 年目を迎えられましたことについて、この事業に参加いただいた大学、企業、行政機関等関係者のご協力並びにご努力に対し厚くお礼を申し上げます。